

第1回佐久市地域スポーツ・文化芸術活動推進連絡協議会 会議録

日 時：令和6年8月23日（金）

午前10時～12時

場 所：佐久市役所 8階大会議室

出席者

委員（19名）

原 拓男	識見者（アテネオリンピックバスケットボール競技・女子選手団長、元教育長職務代理者）
塚田 直道	佐久市立野沢中学校 校長
芝野 崇	佐久市立東中学校 校長
堀籠 英和	佐久市立臼田中学校 校長
佐藤 元昭	佐久市立浅科中学校 校長
飯島 廣樹	佐久市立望月中学校 校長
伊坂 倉一	（特非）佐久市スポーツ協会 会長
大塚 寛美	佐久市スポーツ推進委員 会長
篠原 一郎	（特非）もちづき総合型クラブ 理事長
荻原 和章	（特非）もちづき総合型クラブ（学校運動部活動指導士）
土屋 岳	岸野スポーツクラブ 会長
原 暁生	佐久平バレーボール協会 総務委員長
平林 照義	佐久バスケットボール協会 副会長
沼田 浩人	佐久サッカー協会（（特非）佐久市スポーツ協会 サッカー部 部長）
小金澤茂喜	佐久地区剣道連盟 副会長
小林 英明	佐久レーレルコール 事務局長
荻原 周子	合唱指導者、元佐久市教育委員会教育委員
由井 正史	長野県観光スポーツ部スポーツ振興課 現地駐在スポーツ指導主事
出口 哲朗	長野県教育委員会事務局保健厚生課 教育主幹兼学校体育係長

事務局（11名）

吉岡教育長

工藤社会教育部長、佐々木学校教育部長

スポーツ課 木内課長、大島スポーツ推進係長、神津

文化振興課 中沢課長、武石文化振興係長

学校教育課 小林主幹指導主事

スポーツ協会 吉澤事務局長、井出

1 開 会

2 あいさつ 教育長より

3 会議名称及び任期の変更について【資料 1-1、1-2】
資料 1-1、1-2 について事務局より説明

4 新委員の選任について

5 協議事項

- (1) 令和 6 年度第 1 回佐久市立中学校運動部活動の地域移行協議会の経過確認
【資料 2】
- (2) 佐久市部活動地域移行の方針について
【資料 3-1、3-2、3-3、3-4】
- (3) 部会について【資料 4】
- (4) 質疑・意見交換【参考 1、2、3】

(1) 令和 6 年度第 1 回佐久市立中学校運動部活動の地域移行協議会の経過確認
資料 2 について事務局より説明

(2) 佐久市部活動地域移行の方針について
資料 3-1、3-2、3-3、3-4 について事務局より説明

【会長】

佐久地区剣道連盟、佐久平バレーボール協会については順調に進んでいるようだが、具体的に状況を説明願いたい。

【委員】

参考 3 のようにパンフレットを作成しており、今後修正は必要だが、現状ではこのように考えている。先行モデルということで 10 月から段階的に休日地域移行を進めていくこととしており、連盟として想定している事項については記載のとおりであるが、会場確保や会費については検討を重ねていく必要がある。

【委員】

バレーボールについては、すでに会議を数回行ってきており、7 月には保護者を交えて

の会議も実施している。バレーボール協会の方針や実施方法などについて、男女バレー部の保護者代表や顧問の先生に説明をした。8月から休日地域移行をスタートしたかったが、会場確保などに課題があるため、12月を目途に開始予定として協会で動いていきたい。会場確保については顧問の先生方に協力いただかないと動けないので、各中学校の校長含めでご理解ご協力願いたい。

指導者については、佐久平バレーボール協会の活動の一環としているため、協会員が行うよう考えており、現顧問の先生方、及び外部指導者の方には兼職兼業で協会に加入していただき継続していただけるように促していく。加入を希望されない場合には、協会から指導者を派遣するので一緒に活動を進めていくことを想定している。指導者が平日と休日で代わってしまうような場合には、保護者の方にも理解をいただいて、休日の指導者、顧問・外部の指導者、保護者がきちんと互いに連絡を取り合いながら情報交換を密にさせていただくことはお願いしていく。

費用については生徒一人当たり月1,500円を目安に考えており、指導者謝金では源泉徴収等について課題がある。その他、使用する道具について各学校のものを借りられるのか、連絡方法はどのようにしていくのか、学校で使用しているGoogle for Educationを地域移行においても使用できるのか、などが課題。協会でも他市の状況など情報収集しながら、どんなやり方がいいのか考えて動いているところである。

【会長】

コンプライアンスについては大きな問題になってくる可能性がある。その中で、顧問と外部の指導者が連携をしていくのは当然で、さらに保護者が加わって一緒にやっていくことも必要だと思う。

(3) 部会について

資料4について事務局より説明

【会長】

剣道、バレーボールの部会について、今ここで承認するという事なので、謝礼等についてご意見があれば発言を願いたい。

【委員】

謝礼の3,250円というのは、1人につき、ということでしょうか。

【事務局】

出ていただいた方1人あたりに、ということで1人あたり1回3,250円を予定している。参加者が100人などといった常識の範囲を超えるような場合には、事務局に相談いただく中で調整させていただく場合もあるので、ご承知おきいただきたい。

【会長】

部会を行うとなれば10人や15人くらいになる可能性はある。どのくらいの範囲になるのか事前に打ち合わせをしておくのがよい。

【委員】

バスケットボール協会は南北佐久も含まれており、佐久市だけではない。佐久市に関係する人だけの場合が部会として承認されるのか。

【事務局】

各協会・連盟には、佐久市外の方が入ってくる場合も多いと思う。全体の方針を定めるとすると、それぞれの協会や連盟の総会などでやっていくことになると思われるが、メンバー構成や人数は異なってくる。佐久地区剣道連盟は連盟の中に地域移行に関する部会を作っているとお聞きしているので、そのような例を参考に組織体制をお作りいただければと思う。

我々は佐久市教育委員会なので、佐久市が第一優先だが、状況により広域的な合同部活動が必要なケースもあると思われる。その場合には相手先の自治体にも負担をさせていただくようなことも考えられるが、状況を教えていただきながら行政間の調整も行いたい。

【委員】

佐久平バレーボール協会では、理事長、副理事長、部活動顧問や保護者に会議に出席してもらっているが、佐久市内だけでなく小諸市や立科町からも協会の立場上来ていただいている。どうしても会議の運営上、市外の人だから参加できないとしてしまうと進まなくなってしまう。そのあたりのところをはっきりしてもらえば、バスケットボール協会についての考え方とも一致してくるのではないか。

【副会長】

柔道の関係では佐久市に協議会はあるが、大会を含め指導者を集める時には佐久市の人員だけではできず南北佐久も含めて探さないといけないので、佐久市外の方の参加については議論していく必要がある。

【教育長】

部会のことについて、よく詰めておらず申し訳ないが、お金の発生することなのでどうしても予算のことがあり、基本的な考え方を作っていかなければならない。また、この協議会で承認するということになるので様式の提出がなければ承認となっていくので、予定やメンバー、人数などを記載するような様式を作成していく。謝礼支給は教員を除くとなっているが、先生方には実際に色々な場面で知恵を借りていかなければなら

ない。会議は夜開催されることもあり、働き方改革もある中ボランティアでお願いします、というのは少し検討する必要がある。ここで承認されることで謝金及び費用弁償の支払いを行うことができるものとするやり方はよいと思うので、いただいた議論を様式に落とし込んで提案していきたいと思う。子どもたちから、ゆる部活などの希望があれば受け皿を作っていかなければ、というのが将来的な見通しなので、ここで承認というときにはやはり様式がなければいけない。

【委員】

剣道とバレーボールに関してはこの協議会でモデルとして進めましょう、とやっている。今の謝金のことに関しては承認云々よりもモデル事業でどんどん進めていきたいので、事務局で決めたもので進めこれから新しく作るものについては様式の作成や承認を得るという方法を取っていく、ということで問題ないのではないか。

【事務局】

バレーボールでは保護者を交えて会議をしている状況であり、今後行われる保護者を交えて行うような会議については、部会ということで進めていきたいと考えているため、このように提案させていただいた。

【会長】

剣道とバレーボールについては、ここで承認を得てどんどん進めていくということで、今回についてはこの2つの競技のみ承認をいただくということにしたい。ここで承認したいと思うので、賛成の方は挙手願いたい。

～全員挙手～

【会長】

それでは、承認されたものとしたい。色々なご意見いただきありがとうございます。ありがとうございました。

(4) 質疑・意見交換

【事務局】

ディスカッションテーマの参考として、資料1を配布している。まずは休日の学校部活動の地域移行の目的と意義についての確認になるが、方針の「生涯にわたってスポーツ・文化芸術活動に親しむ環境づくり」を目指すという中で、キーワードとして「選択できる」、「多様な人と関わる」、「専門性の習得」。あくまで主役は中学校の生徒であり、平日行っている競技・活動を休日にも行うという選択肢だけでなく、例えば平日は剣道だ

が休日は野球を行う、平日は運動部だが休日は文化部活動を行う、ということもあるできるので例示している。また休日には部活動に参加しない選択肢もある。

また、多様な人に関わることについては地域移行の場の指導者や他校の生徒など多様な人たちと関わる機会が増える、そういったことも目的となる。

専門性の習得については、専門的な指導を受けることができる、あるいは個人のスキルの向上も期待できるというところ。ただ、非常に重要なところとして、大会やコンクール等で勝つことのみを目的に活動してはいかない。いわゆる勝利至上主義とは一線を画した活動としていくので、確認の意味でその旨を記載している。

参考2については、モデル事業の剣道とバレーボールの状況について記載している。指導者の部会への加入や会計管理については行政も関わっていく課題として考える必要があるということで、ディスカッションテーマとして示しており全体の中で参考議題としていただきたい。

【委員】

情報提供になるが、日本中体連の事務局長に今年度就任した方と話す機会が3月にあり、就任前の個人的な考えということだが、話を伺った。地域移行は当然進めていくものであり、中体連自体も大きく変わっていかないといけない。全国大会をやめる方向で進め、試合形式をトーナメントからリーグ戦形式に変えていく。今までは勝利のみを目指す運営が過度に行き過ぎてしまっており、トーナメントだと優秀な生徒だけが試合に出るため、せっかく部活動をやっているのに試合に出られず終わってしまう生徒が非常に多い。この地域移行を機に大きく変改していかなければ、ということだった。

リーグ戦への移行は大きな課題になっていくと思われるので、そのようなことを頭に入れ考えていかなければならないのではないかと思う。

【会長】

私も常々勝利至上主義については考えており、熱心な先生に限って「俺が教えたから、このチームは強いんだ」という先生が主体のチームを見てきた。バスケットで言えば、今年は背の低い選手ばかりだから駄目だ、という先生はたくさんいるが、背は低いがディフェンスを鍛えてすごくいいチームになりますよ、という先生が一人だけいた。それこそが指導者ではないか。特に義務教育であるので、生徒中心なのがあたりまえではないのか。

【委員】

先ほどの中体連についての補足になるが、令和6年6月8日に9競技の全国中学校体育大会（全中）廃止が通知された。今後進みゆく社会情勢を踏まえた持続可能な全中の在り方について検討した結果であり、日本中学校体育連盟は9競技については縮減するが中体連を無くしていこうという動きはしていない。また、県中体連ではプロジェクト

委員会を10月に立ち上げるための準備委員会を8月30日に設置する。協議することはいくつかあり、全中が縮減した競技については県の競技団体の大会に移行をお願いしていくのか、県中体連が全国大会のない県大会だけの交流大会として開催するのかなど。加えて、継続予定の競技の大会運営の在り方について。クラブチームが150～160チーム参加してきている中で、教員だけでなくクラブの人たちにも運営をやってもらわないととてもできない状況になっているので、中体連の事務局の在り方について話し合う。また、県で交流大会を開くが北信越大会の開催をどうしていくのか。継続される11競技については全中までつながるので代表決定戦を行うが、9競技については全中はやらないが、地区大会、ブロック大会、県大会は各競技団体で判断と言っているのでこれから検討し、令和9年度からの実施にはなるが予算要求の関係から令和7年度末をもって方針を決定する見込みになっている。

今日の報道にも出ていたが、令和7年度の概算要求で、スポーツ庁・文化庁では地域移行に関して69億円を要求しており、今年度から実質47億円の増額となっている。部会を開催するためにもお金が必要であり、長野県では実証事業として、今年度33市町村21地区に1億円弱の予算が10/10でついている。佐久市では今年度は行っていないが、国からの支援がある間に部会開催費や人材バンクのための費用などについて実証事業を利用してもらえればと思う。

【委員】

本校は生徒が500名程度の大きい方の学校になるが、男子バレーボール部がなく、1年生にバレーをやりたいという男子生徒が2名いたため、中込中学校に委託して自転車で通って放課後練習している。今の中体連のルールでは他校で練習し大会に出場してもよいことになっている。逆に、中込中学校の男子バスケットボール部は5名しかいないため、合同練習の依頼があったので一緒に活動している。地域移行を含めて受け皿がきちんとできていくのは子どもたちのために非常にありがたい。剣道とバレーボールの実施でよい結果が出て、地域移行にはこのようなメリットがある、ということが周知されていくことが一番大事かなと思った。

学校として今日の会議でも考えたことは、例えば地域移行で剣道部が地域クラブ活動を行う日には、そこに必ず参加してもらうようにして部活動は行わない。顧問の中には「俺のチーム」というプライドを持っている方もいるので、周知徹底を図り中学校の方では活動をしないよう、校長間でも確認を取り徹底していききたい。学校としては剣道とバレーボールの活動を応援していききたい。

【委員】

本校でも他校から生徒の受け入れと、他校への願いしている。サッカー部では立科中学校からも生徒が参加してきており、だんだん市を越えてやっていくことが必要になってきていると思う。

資料 3-1 のパブリックコメントの中に吹奏楽の課題があったが、楽器運搬の問題など地域移行の動きが難しい。令和 7 年度末の期限が迫っており、学校毎の事情もある中で顧問が休日の移行は厳しいとなった時に、部活動指導員に入ってもらえるのかは非常に大事なところだと思う。ぜひ、兼職兼業で指導が可能になっていくような形にしていきたい。

【委員】

本校は人数の少ない中学校であるが、部活動には地域の方や保護者の方に関わっていただき、手厚く指導していただいている。一方で部活動の数が限られているため、加入率が 65% と低くなっている。部活動には加入できないが、休日地域移行では興味のある活動に参加できるように、剣道やバレーボールの状況を見させていただきたい。

【委員】

これから増えていくとは思うが、文化系の委員が 2 人だけとなっており少ないのではないか。学校の現状については私からはそれほど詳しく言える立場ではないので、例えば部会では吹奏楽や合唱が一緒になる形になると思うが、顧問の先生方、保護者代表の方にも加わっていただき、現状を把握しながら進めていく必要がある。

もう一つ、剣道やバレーボールのように協会について考えると、佐久市には合唱連盟というものがある。新しいオーケストラができるようなことも聞いたので、そのような状況も見ながら進めていく必要がある。

佐久レーレルコールでは高校生からは受け入れているが、中学生については検討していく必要があると考えている。

【委員】

剣道とバレーボールについて、推進の仕方が良いなと思った。先ほど会長からも話があったが、ワンマンではいけないので、剣道のように 1 コースに指導者が 2 名は入るとするのは必要ではないか。指導者が 1 人で、技術指導から子どもたちのお世話まで行うとなるとワンマンになってしまうので、チームのような形で指導者＋マネージャーというような形がよいのでは。特に文化部では推進していかなければいけないと感じた。

【会長】

指導者のコンプライアンスはすごく重要で、私もミニバスの指導を 10 年やったが、最初の 3 年は子どもが悪いと思って怒っていた。しかし、実は指導が悪かっただけで、それ以降は褒めてきた。中学生から社会人まで指導してきたが褒めてきただけ、そうすると選手は生き生きとする。失敗して困っているのは選手であり、さらに怒られたら二重に困ってしまう。選手がうまくできないのであれば、自分の教え方が悪いのだと思っていただきたいと思っている。

【委員】

我々のクラブでは子どもたちが楽しんで競技に親しむような窓口を作っている。部活動地域移行については、一部の人間だけで協議するのではなく主役となる子どもたちを含めて本気で考えなければならない。部活にはないバドミントンなど希望の多い競技もあり、様々な競技に関心を持つことが大事でそのような体制を作っていくことが必要だと思っている。

【委員】

子どもたちの目線で考えて行くことが地域移行では非常に大事。その上で選択できるということが大きなポイントで、休日の活動は自分で好きなことを選択できる、色々な競技に触れる機会として子ども目線の考え方が大切。

また、剣道のようにレベルを選択できるというのが大事で、好きな競技をするときに始めて参加するような場合は経験者についていけないので、レベルが選択できれば参加しやすく、指導者も指導しやすいと思われる。実際に動き出す前にレベルについても視野に入れて計画をしていただくと、より子どもに合った活動運営ができるのではないか。

【委員】

佐久地区剣道連盟としては、地域移行も重要だが日本の伝統文化である武道をなんとしても子どもたちに教えて普及させたいという気持ちもある。剣道の一番の理念が人間形成であり、我々も口ばかりでなく実践で指導するように頑張っている。レベルによってというのも、初心者でも剣道をやってみたい、全国大会を目指したいという子どももいるので、バックアップしていきたいと思っている。

【会長】

様々なご意見ありがとうございました。

最後になるが、国と県の動向としては、まずは休日部活動の地域移行推進、平日部活動についてはできるところから地域移行をしていくということになっているが、改めて本協議会でも検討をしていく必要があると思われる。個人的な意見としては、学校の部活動は、ここでしか経験できないことも多く、非常に重要な意義がある。平日の部活動について学校から切り離していくことについてはどちらかと言えば反対であるが、教育長はどのようにお考えか。

【教育長】

簡潔に言えば今会長がおっしゃったとおりで、資料 3-4⑦を見ていただくと、佐久市の平日に矢印がない。県の方でも令和 7 年度まで地域移行の状況を検証して改めて方針

を示すということだが、その方針はどのように進めていくのかというものだと思う。しかし、私としては学校部活動の意義についてもう少し議論をしたいと考えている。

4点考えていることがあり、1点目としては一定数の子どもたちにとっては、明らかに学校での居場所になっているということ。一生懸命取り組むだけではなく、ただしゃべりに行こう、という部活もある。これはとても重要で、教育現場では居場所を作るといっているが学校には居場所がないとダメ、部活動が居場所になっている事実がある。

2点目として、自ら考え判断していく力、非認知能力がこれからの社会では必要とされており、その非認知能力がものすごく育つのが部活動。人と協力して目標に向かって声をかけあい励ましながらかやっというのは県の方でも議論されていないが重要。

3点目は、指導者についてで、休日についてはなんとか指導者が集まると思うが、平日は本当に集まるのかというのが疑問。

4点目として、学校部活動は絶対に無くさない、といっているのが会津若松市。平日の地域移行はリスクであって、平日まで移行すると活動をやるかやらないかは本当に自由になるが、皆が積極的な選択をするとは限らない。これから20~30年後の日本を担っていく子どもたちがスポーツ・文化芸術活動の持つすばらしさにあまり触れずに育ち、スマホ中毒などになってしまう子どもたちを増やしてしまう可能性がある。会津若松市の教育長はこのように考えており、佐久市でもこれだけの短期スケジュールで平日に移行するのは全く考えていない。国や県では、このようにやれば予算をつける、ということになるから財政の面から多くの市町村が国・県の方向に従ってくる。私としては永久にやらないと言っているのではなく、10年20年かけてやっていきたいと思います、と考えている。

このような4点があり今のところはこのように考えているので、ぜひ次回皆さんがどのように思っているのかについても伺いたいと思う。昨日、会長と話をした中で話題になったので、最後に私の考えを話させていただいた。

6 その他

7 閉会